

三学年保護者の皆様へ

広島市立戸坂中学校
校長 山岡 壮吾

平成19年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

晩秋の候 保護者の皆様方には平素より格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本校につきましては、次のような結果でしたのでご報告いたします。

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の成果と課題を把握し、その改善を図る。

2 調査の実施日 平成19年4月24日(火)

3 調査実施学校数(公立学校)等

区分	調査実施校数(校)			調査実施者数(人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第6学年	21,889	569	141	1,125,585	25,916	10,749	-
中学校第3学年	10,050	253	63	1,023,516	22,825	8,659	230

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題【A問題】

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題【B問題】

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況及び体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
81.7	83.3	82.8	-	62.0	65.0	65.0	-	82.1	84.7	84.2	-	63.6	65.0	65.7	-

【中学校】

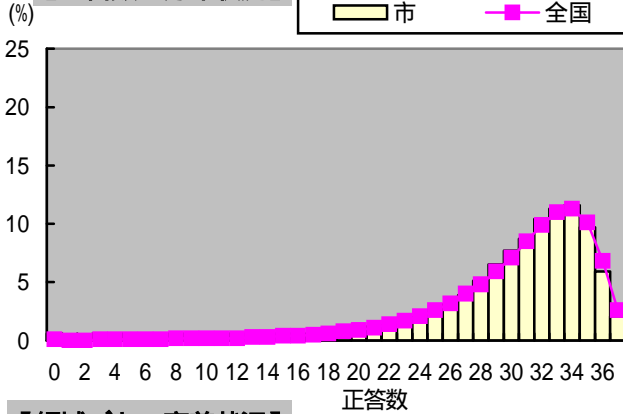
国語								数学							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
81.6	82.4	81.9	81.9	72.0	72.0	72.0	73.0	71.9	73.3	73.6	71.1	60.6	60.6	60.6	57.6

6 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語 A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	90.1	90.4	90.7
書くこと	73.4	73.6	74.0
読むこと	80.6	80.8	79.4
言語事項	80.3	80.4	80.7

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	84.2	84.8	84.5
短答式	79.3	78.9	79.2
記述式	72.4	71.2	74.8

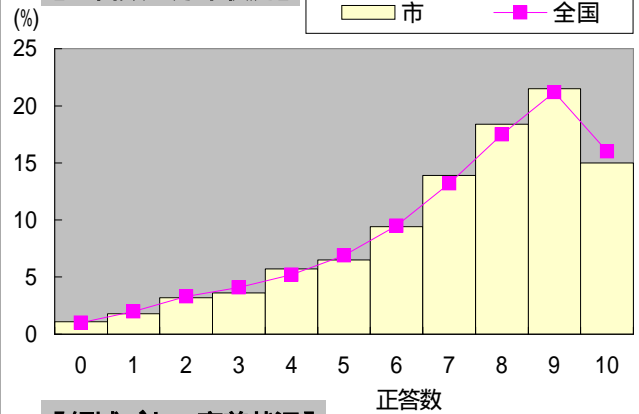
定着状況

「話すこと・聞くこと」に関しては、問題 A で全国・市平均を上回っており、基礎的な力は身につけているといえる。

「読むこと」「書くこと」「言語事項」については、基礎的・発展的な力ともに定着しているといえる。

国語 B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	81.3	81.3	79.1
書くこと	64.4	64.4	66.5
読むこと	70.6	70.8	72.5
言語事項	68.5	68.7	69.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	79.3	79.3	79.4
短答式	63.5	64.4	67.4
記述式	64.4	64.4	66.5

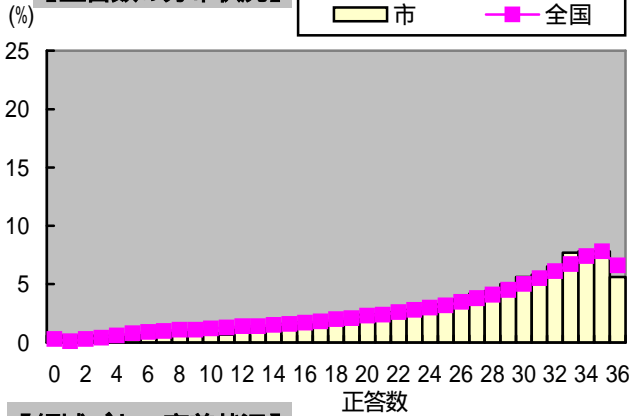
課題

問題 B では、「話すこと・聞くこと」が全国・市の平均を下回っている。何を伝えようとしているのか必要な情報を聞き取る力、そして、自分が伝えたいことを正確に伝える力を、授業の中で身につけていくことが課題である。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	74.4	76.6	75.1
図形	75.5	77.2	75.5
数量関係	65.9	66.9	63.0

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	70.9	71.6	68.7
短答式	73.0	75.6	73.7
記述式	-	-	-

定着状況

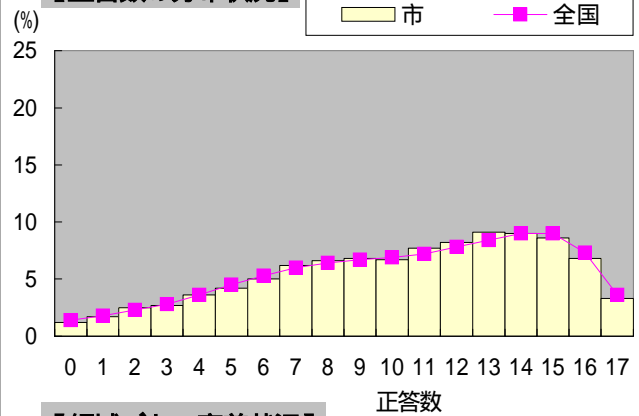
数と式の領域で、知識・理解、表現・処理の問題の正答率は全国・市平均を上回っており、基礎的な知識、計算力は身につけている。

図形領域では、基礎的な知識や作図の仕方は身につけている。

数量関係の領域では、試合の組み合わせや順位を決める問題のように、情報を的確に処理し、結果を比較したりすることはできている。

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	48.2	48.4	47.9
図形	53.1	52.0	44.3
数量関係	67.9	68.0	65.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	63.9	64.7	60.4
短答式	74.2	74.1	71.0
記述式	45.1	44.8	43.5

課題

数量関係では、グラフから必要な情報を読み取ったり、問題解決の方法やそのような結果になる理由を数学的に説明する力が弱い。

図形の証明では、仮定と結論の意味が正しく理解されておらず、結論を根拠として使うなど、筋道を立てて説明することができない。

説明などの記述式問題の無解答率が高い。身につけた知識を活用する力をつけていく必要がある。

2 意識調査について

(1) 生活・学習

基本的な生活習慣については、おおむね良い習慣がついている。

自分を肯定的に感じる気持ちが比較的高く、多くの生徒が安心して生活できている。

学習習慣を分析すると、家庭での学習時間が1時間未満の生徒が多いことと、宿題はやるけれど予習・復習が十分でないことが気になる。

住んでいる地域にあまり関心がなく、行事への参加も少ない。

農業体験や福祉体験をしたことのある生徒が少ない。

(2) 教科

【国語】

ほとんどの質問事項において、全国、県の平均を上回っており、わが校の生徒の国語に対する意識は高いものと判断できる。

「自分の思いや考えを書くことが多いか」の質問事項においては、全国、県の平均を下回っており、「友達と話し合ったりして意見を交換する場面が多いか」の質問事項においてはわずかながら県の平均を下回っている。

【数学】

「数学の授業は好き」「数学の勉強は大切」「授業の内容はよく分かる」「数学ができるようになりたい」の質問に肯定的な回答をした生徒は全国・県平均を上回っており、数学に対する意識は高い。

数学の授業で学習したことを普段の生活に活用しようと考えても、その活用の方法がわからない生徒が多い。



3 確かな学力の定着と向上に関する研究目標

<研究主題> わかる授業の創造・指導方法や評価方法の工夫改善

- (1) 授業規律（ベル着・あいさつ・発言のルール）の確立
- (2) 「基礎学力（読み・書き・聞き話す力）」の育成
- (3) 「基礎・基本」の定着



4 指導改善に向けた具体的な取組

【国語】

基本的には今までの取り組みを継続していくが、さらに授業において、「読むこと」に時間を増やすと同時に、「自分の思いや考えを書く」と「生徒間の話し合い（ディベート）」の時間を増やしていく。

【数学】

単なる知識や計算技能の習得に終わらないように、具体的な場面に結びつけたり、図やことばの式を使って考えさせたりする。また、数学の学習を活用しようとする姿勢と活用する力を育てるため、普段の生活に促した問題設定を行う。

【生活・学習習慣等】

- ・家庭学習の習慣をつけるため、宿題の出し方を工夫し、提出の状況をみながら個別指導を行う。保護者・生徒には、学年だよりなどを通して家庭学習の大切さを伝えていく。
- ・1学年の職場体験や2学年の職場体験を行う際には地域との関わりという視点を大切にし、生徒に地域への関心を持たせる。
- ・生徒に対して体験活動への積極的参加を促すとともに、本校の行事の内容を再検討する。